

2007 秋号 (第11号)

# 四国産業保安情報

## ■行事報告

- ①「電気使用安全月間」関係行事の開催結果 ..... 1
- ②「平成19年度四国地区発電所長並びにボイラー・タービン主任技術者  
会議開催結果」 ..... 2
- ③ 保安技術職員等研修「緑化対策」開催結果 ..... 3
- ④ 平成19年度徳島、高知、愛媛地区保安懇談会開催結果 ..... 5

## ■組 織

- ①中国四国産業保安監督部四国支部職員人事異動 ..... 6
- ②中国四国産業保安監督部四国支部組織図 ..... 7
- ③中国四国産業保安監督部四国支部職員（平成19年10月1日現在） ..... 8

## ■行事予定 平成19年10～12月行事予定 ..... 8

## ■災害・事故情報

- ①平成19年四国管内電気事故発生件数（7～9月） ..... 9
- ②平成19年四国管内事故発生件数（1～8月） ..... 9
- ③平成19年四国管内鉱種別鉱山災害発生状況（1～7月） ..... 9

## ■編集後記 ..... 10

## ■災害・事故等発生時の緊急連絡先 ..... 10

中国四国産業保安監督部四国支部発行

## 行事報告

### 「電気使用安全月間」関係行事の開催結果

#### 電力安全課

経済産業省では、感電死傷事故の発生しやすい8月を「電気使用安全月間」と定め、全国的に安全運動を展開しています。

当支部が今年度実施しました三つの主要行事について、その結果を報告します。

#### ◇電気保安功労者原子力安全・保安院長表彰式◇

電気保安功労者の表彰制度は、広く保安意識の高揚を図ることを目的として永年にわたり電気関係業務に従事し電気保安に顕著な功績のあった者を表彰する制度であり、電気保安行政の一環として昭和39年度から全国的に実施しているものです。

平成19年度は8月1日（水）にホテルニューフロンティア（高松市）において以下のとおり原子力安全・保安院長表彰式を行いました。

##### 【受賞者（敬称略）】

##### 工場等の部（1件）

株式会社リブドゥコーポレーション  
徳島三野工場

##### 電気工事業者の営業所の部（7件）

有限会社森電気工事店  
三幸電気工事有限会社  
旭電機水道株式会社  
有限会社山下電気工務店  
有限会社内田電気水道設備  
有限会社ナカイテレビ  
株式会社豊栄電気工事

##### 個人の部（4名）

天羽 頼雄（有限会社アモウ）  
真鍋 福秀（真鍋電気工事）  
寺尾 博志（寺尾電気設備株式会社）  
永野 智雄（有限会社城西電気）



<電気安全セミナー>

なお、同日、東京においても経済産業大臣表彰式が執り行われ、四国管内では次の方々が表彰を受けられました。

##### 電気工事業者の営業所の部

有限会社コムラ電機  
有限会社三原電機商会

##### 個人の部

福江 利行（株式会社瀬戸電設）

#### ◇電気使用安全月間街頭キャンペーン◇

8月2日（木）12時から高松南部三町ドーム（高松市内商店街の田町、常磐町、南新町の交差点）付近にて、電気使用安全に関するチラシやうちわ等のPR用品を配布し、電気安全についての呼びかけを行いました。

#### ◇電気安全セミナー◇

電気事故の未然防止を喚起する観点から、電気主任技術者等を対象（参加人数合計1,020名）に、電気使用安全月間の主旨、電気事故の事例等について説明するとともに、電気保安講演会を行いました。

##### 【開催日、開催会場及び参加人数】

7月26日（木）松山市総合コミュニティセンター（240名）  
7月27日（金）ユアーズ（143名）  
8月 3日（金）徳島JA会館（193名）  
8月 6日（月）サンポートホール高松（299名）  
8月 9日（木）高知電気ビル（145名）

# 平成19年度四国地区発電所長並びにボイラー・タービン主任技術者会議開催結果

## 電力安全課

平成19年9月6日（木）～7日（金）にかけて、徳島東急インにおいて「平成19年度四国地区発電所長並びにボイラー・タービン主任技術者会議」を開催しました。

この会議は、四国管内においてボイラー・タービンを設置している火力発電所の保安確保及びボイラー・タービン主任技術者相互の連携を図ることを目的として、毎年実施しているものです。

会議には、管内の事業者をはじめ76名の出席があり、原子力安全・保安院及び当支部からは、火力発電に対する安全規制の状況や、法律等の改正などについて説明を行ったほか、事例研究として、四国電力㈱火力本部坂出發電所長 溝淵俊寛氏から建設計画中の「坂出發電所へのLNG導入計画の概要」、(財)発電設備技術検査協会 法定業務室 審査グループ長 森本正彦氏から「安全管理審査における気付事項及び注意点」、と題して発表が行われました。

また、四国で初めてLNGガスタービン発電設備が導入された大塚化学㈱ 徳島工場OC I 発電所の視察を行いました。

参加者の方々は熱心に説明に聞き入り、自分の事業所と比較して質問されるなど、保安や技術面について高い関心を示されていました。



〈開催挨拶〉



〈事例研究風景〉

# 保安技術職員等研修「緑化対策」開催結果

「森林の構造と機能をどのように評価するか—地球環境の現状をふまえて」

管理課

平成19年7月17日（火）、三翠園（高知市）において、京都大学 河野昭一名誉教授を講師にお迎えし、平成19年度中国四国産業保安監督部四国支部保安技術職員等研修「緑化対策」を開催しましたので、その概要について紹介します。

## ●第一部 概要 「緑化事業を進めるに当たっての基本的な考え方と方法」

<奥多摩天祖山での緑化再生プログラム>

鉱床跡地の緑化を実施するにあたり、最初に、①極度の貧栄養条件下でも成長できる菌根を持つヤマハンノキ（カバノキ科）と②基層の不安定な石灰岩採掘跡地において定着率の高いフジアザミ（キク科）の播種を行った。

まずはそれらの繁殖力により、斜面の安定化を図るとともに、周辺部から自然散布（風、動物糞）される在来植物の侵入、繁茂を待つ。時間はかかるが、継続的な努力無くして、緑化はできない。

（質疑応答）

Q1：裸地は雨水の集中、乾燥という悪条件があるが、植生を回復するために救世主的な植種はあるか？

→まず、現地に自生している種に着目すること。経験上は、土壌なくとも、初期の植生まではたいてい可能とみる。ただしその後、追加で何を植えるか、何を施していくかが大きな課題。

また、「管理を続けられること」や周辺環境と調和するかも重要。ことに周辺森林にも異変が起きている場合（例えばシカ被害等による衰退）には、対策を続けてよいのか判断する必要がある。



平成11年9月



平成15年9月

<天祖山1630m地点における植生復元の状況>

Q2：「フジアザミ」は植被率が高いということであったが、石灰岩の上ではどうか？

→火山灰地で効果的だったが、石灰岩でも土壌なくとも群生までさせられる。ただ、富士に固有種なので人工的に生殖域を拡大させることは問題があり、次期の植種まで管理する必要があろう。

Q3：最初から複数種の植栽はできないか？

→多种植栽は理想であるが、多種のままでの安定は期待できない。